

1. 審議事項

1. 査読プロセスの改善 (松山副委員長、山中副委員長)

【現状】

担当委員が受理提案 → 島田さんが Discussion をオープン → 担当副委員長が Discussion をクローズ

【修正案 1】

担当委員が受理提案 → まず、担当副委員長が受理提案された論文を読み、Discussion をオープンしてもよいと判断したら Discussion をオープン (論文の体裁の修正については、担当副委員長が直接 Word のファイルに手を入れる。(Word には修正履歴を残しておいて後日著者に返却する. Discussion するのは、修正履歴を外して作成した pdf とする)→ 担当副委員長が Discussion をクローズ

【修正案 2】

担当委員が受理提案 → Discussion は従来通りのやり方で行い、担当 AE の判定の可否だけを議論する。→ 担当副委員長が Discussion をクローズ 担当 Editor もしくは Production 専門 Editor (新設) が、英文校閲後に体裁の修正を行う。

【修正案 3】

1. 担当 AE は 1 回目の査読のみを担当する。つまり査読者選任が AE のメインの仕事と初めから規定する。
 2. 査読者と担当 AE の所見を踏まえ、担当 Editor が 1 回目の判定を行い、その際プロダクションレベルの細かい修正も指摘する。
 3. 必要に応じて担当 Editor が 2 回目の査読を依頼する。2 回目で Accept できない見込みであれば、1 回目の査読結果は Resubmission としておく。
- ### 2. 利益相反の制定に関する提案 (田中丸副委員長)
- ### 3. 合同誌化について (山中副委員長)
- 2015 年度 第一回 水関連合同誌準備協議会 議事録(添付資料)を参照。
- ### 4. 図表のワード換算 (山中副委員長)

以前、図表は合計で 1printed ページ以内、という制約がありましたが、現在は字数の制約と総ページ数の制約だけです。これはこれでうまく回っているかと思うのですが、図表が多い場合、総ページ数がどの程度になるか、ゲラ刷りが上がってこないと著者も我々も把握できていないかと思えます。

結果として規定ページを超過してしまう場合、日本人であれば負担してくれると思いますが、海外からの投稿の場合は超過チャージを回収できない、あるいは払えないから出版できないという事態も起こりうるのではないかと思えます。

そこで、AGUのように、図表は（その大きさに関わらず）1点につき500 wordsに換算するなどとしてはいかがでしょうか？500ワードは、ちょうど1/2ページぐらいに相当します。事前に著者が把握できていれば、より積極的にSupplementへの移行を考えると良いでしょう。

2. 報告事項

理事会資料参照

3. 業務目標

1. 合同誌化への準備。
2. 「HRLへの貢献を称える」の学会誌への投稿
3. 「HRLの現状2015」の学会誌への投稿
4. 「オープンフォーラム報告」の学会誌への投稿
5. スペシャルコレクションを2つ企画する。
6. HRL ニュースレターの刊行。
7. 発展途上国からの投稿に対する掲載料補助の枠組み構築。

(資料)

2015年度 第一回 水関連合同誌準備協議会 議事録

日時：2015年5月27日（水）18:00～20:30

場所：プレナ幕張 かまどか

参加者：内田洋平・杉田 文・杉田倫明・谷口真人・仲江川敏之・松島 大・山中 勤

(五十音順, 敬称略)

協議事項

1) 協議会の名称及び構成

- 名称を「水関連合同誌準備協議会」（以下、協議会）とする。
- 参加学会は、水文・水資源学会、日本水文科学会、日本地下水学会、及び陸水物理研究会の4学会とし、このほか日本雪氷学会、日本農業気象学会、及びJPGU大気水圏科学セクションがオブザーバー参加する。
- 協議会会長を日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会委員長とし、発起人か

つ前任者である谷口より窪田順平氏（総合地球環境学研究所）に就任を依頼する。

- 協議会構成員は表 1 の通り。
- JPGU 大会期間中と 12 月を目途として年 2 回開催する。その際、各学会長にも参加を呼び掛ける。

表 1 水関連合同誌準備協議会構成員名簿

	氏 名	選出母体
会長	窪田順平	IAHS 小委員会
委員	内田洋平	日本水文科学会
	杉田 文	日本地下水学会
	知北和久	陸水物理研究会
	仲江川敏之	水文・水資源学会
	山中 勤	水文・水資源学会
オブザーバー	青木輝夫	日本雪氷学会
	内田 努	日本雪氷学会
	杉田倫明	JPGU（大気水圏科学セクション）
	松島 大	日本農業気象学会

2) 合同出版に向けたロードマップ

- 水文・水資源学会の英文オンラインレター誌 Hydrological Research Letters（以下、HRL）をベースとして、表 2 に示す 3 つのステージを経て複数学会による合同誌化を目指す。
- 第 1 期～第 2 期の雑誌名は HRL のままとする。

表 2 合同出版に向けた 3 つのステージと関連学会の位置づけ

ステージ	発行元	協賛学会	オブザーバー
①	水文・水資源学会	日本水文科学会 日本地下水学会 陸水物理研究会	日本雪氷学会 日本農業気象学会 JPGU
②	水文・水資源学会 日本水文科学会 日本地下水学会 陸水物理研究会	未定	未定
③	水文・水資源学会 日本水文科学会 日本地下水学会 陸水物理研究会	廃止	廃止
		ほか	

3) ステージ①の編集体制（図 1）

- 協賛学会からそれぞれ1名が Editor として HRL の編集に参画し、C&E の一員として最終的な受理決定や編集プロセスの進行管理などを行う。
- オブザーバーは協議会に参加するのみで、HRL 編集には関与しない。



図1 ステージ①における HRL 編集体制

4) 今後のプロセス

- 水文・水資源学会が Editor の職務内容を協賛学会に連絡する。
- 協賛学会は Editor を選出して6月末までに水文・水資源学会に連絡する。
- 水文・水資源学会は HRL の Web サイトに協賛学会を明記するとともに、協賛学会選出 Editor を名簿に記載する。

5) 次回会合での主な議題

- ステージ②における運営体制（費用分担、委員構成、著作権管理など）について。
⇒ 水文・水資源学会が事前に原案を作成。
- ステージ①から②への移行時期について。

6) その他

- 協議会のメーリングリストを作成（杉田倫）。
- 次回会合には日本陸水学会及び温泉学会にもオブザーバー参加を呼び掛ける。

以上